

# 全国協議会 ニュース

2016年7月1日発行 第289号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）  
http://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp



## 総会を終えて

全国骨髄バンク推進連絡協議会  
理事長 野村正満

骨髄バンクとさい帯血バンクを支援するボランティア団体・全国骨髄バンク推進連絡協議会の理事長として戻ってきて、はや3年が経過しました。この短い期間にも、昨年の設立25周年記念事業などいろいろと取り組んできましたが、まだまだ解決しなければならない課題が残っています。先日の総会の場では、全国のボランティア団体のみなさまにはその思いをご説明しましたが、ここで改めて私の決意を述べるとともに、多くのみなさまのご理解とご協力を得て、課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

### 全国協議会の財政再建

3年前、全国協議会の経営責任を任された時は、財政的には毎年2000万円程度の赤字を想定する予算が組まれるという異常な状況が続いていました。それでも運営が維持できていたのは、その数年前に1億円という大きな寄付をいただき、毎年それを食いつぶしていたからに他なりません。財政を立て直すためには、まず支出を削減しなければなりません。様々な工夫で経費節減の努力を行いましたが、これまでにやってきた白血病フリーダイヤルや各基金などの患者支援事業を継続するには、事務局体制の維持が不可欠で年間2000万円程度が必要です。それを補填するためには新たに恒常的な収入の確保が必要となります。その解決策を私たちは

賛助会員制度の強力な推進に求めました。多くの知人に声をかけ、学会の会員に呼びかけて賛助会員になっていたくとともに、これまであまり縁のなかった財界から日本商工会議所名誉会頭の岡村正氏に顧問をお願いし、商工会議所を介して賛助会員募集のアプローチを始めました。その成果が表れるのはまだまだ時間がかかりそうですが、その努力を最大限に続けるとともに、その推移を的確に判断し、状況によっては組織の存続をも視野に入れた判断もしなければならないと思います。

### 骨髄バンクの再構築

わが国における非血縁者間の骨髄移植とさい帯血移植は、昨年は1260例あまりでほぼ同数となりました。今年に入っては、さい帯血バンクの移植が月間10例以上骨髄バンクを上まわる状況です。決して骨髄移植のニーズが低いわけではありません。希望する患者の4割以上は移植に至っていません。その原因はドナーコーディネイトに時間がかかって移植まで待てない状況があるか

らです。その一部はさい帯血移植にシフトしているのは間違いありません。日本骨髄バンクでは移植数減による医療保険からの収入減を原因とする財政悪化の解決策の一部として患者負担金値上げを目論んでいます。それは患者負担金のないさい帯血移植への移行というベクトルを倍加させるだけで、負の連鎖に陥っています。こうした状況の打開策は、法律で明記された事業の責務がある国の財政支援が必要です。加えて、コーディネイトに対する考え方から根本的に見直し、抜本的なマニュアル改定で大幅な期間短縮をはかって行くことが求められます。ユーザーの求めることに対応できるか、骨髄バンクはサービス業の精神の基本を忘れるようなことがあってはならないと思います。

### 秋の駒沢・ランナー募集!

「2016グリーンリボンランニングフェスティバル」が10月10日(祝)東京駒沢公園で開催されます。骨髄バンクのタスキをして走ってくれる方を募集しています。

8月5日までに全国協議会事務局までご連絡ください。詳しくは当協議会のホームページをご覧ください。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

### 骨髄バンク NOW

《財団マンスリー JMDP(6月15日発行)より抜粋》

#### ■日本骨髄バンクの現状(2016年5月末現在)

	4月	5月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,614	2,575	460,497	668,967
患者登録者数	232	239	3,282	48,063
移植例数	100	86	—	19,483

#### ■5月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/857人、献血併行型集団登録会/1,639人、集団登録会/31人、その他/48人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

#### ■5月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,153人/20代 70,067人/30代 140,965人/40代 193,582人/50代 52,730人

#### ■5月の20歳未満の登録者345人

■5月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数: 173件

白血病フリーダイヤル  
0120-81-5929

毎週土曜日10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みの相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

# 「造血細胞バンク・法制化3年目」～現状と課題～

5月28日(土)に行われた「2016全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」のシンポジウムでは、全国協議会事務局から山崎裕一参与が、現状と課題・提言の説明をし、次いで厚生労働省の鈴木章記室長から行政の取り組みについての講演(6月号に掲載)、そして野村正満理事長から法律見直しの視点・提言を受けて、パネルディスカッションが行われました。



## 骨髄バンクの移植数が減少し、さい帯血移植数が上回ってきているが

谷口 基調報告などで、骨髄バンクの問題点ばかりが出されたが、15年前、10年前の移植現場を思い返せば、ドナーがいなくて移植をあきらめざるを得ない方が沢山いた。今の日本では、もうドナーがいなくて苦勞する時代ではなくなった。喜ぶべきことと思う。

## 造血細胞移植の選択のコンセンサスは

谷口 今までのコンセンサスは、まず血縁者間骨髄移植、次に骨髄バンクの非血縁者間骨髄移植。そしてさい帯血移植だと思う。ただ、骨髄バンクのドナーは、コーディネートで一定の時間がかかる。患者によっては待てない方が、さい帯血移植へ移行することは当然ある。私は、骨髄バンクの市場をさい帯血バンクが奪ったとは思っていない。

小寺 現場の医師たちの選択順位は、まず血縁者間移植が1/3程度。つまり2/3は非血縁者間移植を必要とする。

骨髄バンクへの信頼感、期待は依然として高い。しかし、骨髄バンクは1/3しか提供できていない。1/3はさい帯血移植がカバーしている。最近では血縁者間でのミスマッチ移植(ハプロ移植)も増加してきている。骨髄移植を必要とする人に必要な時に届けるのが骨髄バンクの使命だ。それぞれの患者の条件を良く考えて、骨髄バンクの移植か、さい帯血移植でも十分かを推定しなければならない。

## 移植方法の順位付けで、

### 施設での違いは

谷口 どの移植ソースが一番適切かというものは、今のところない。虎の門病院では、この10数年間は年間、骨髄バンクの移植数は20~30例、さい帯血移植は80~90例を行っている。結果的にこうなったものだ。移植ソースによって移植成績が変わらない、最終的な生存率も一緒ということが学会データで明らかになっており、医学的にも正しいものと思っている。患者の状況を考慮して、それぞれの施設が得意な治療法をやれば良いと思っている。

## 鈴木室長の感想、考えは

鈴木 一番大切なのは患者の命だと思う。患者に適切な造血細胞ソースを必要な時に届けること。そのために、それぞれのバンクが抱えている課題を解決して行かなければならない。コーディネート期間短縮化などは、患者が治つ

て行くために、これからもしっかりとサポートして行きたい。

## 法律に加えてほしい点は

谷口 これまでの実績には、現場は感謝している。この法律は、移植推進の法律だったはずが、バンクの推進法になってしまった。医療の現場では、例えば血縁者間移植はドナーを守る権利などの法的規定がない。一番困っているのは、海外で使える薬や機器は医療保険が通らないため使えない。しかし、移植に必要なので患者に買ってもらうと混合診療になる。おそらく逮捕されないと思うが、それに近い圧迫感がある。だからこそ、移植医療推進法にして欲しい。

## さい帯血バンクの現状は

高梨 全国の6カ所(札幌、東京、名古屋、大阪、神戸、福岡)のさい帯血バンクのうち4カ所は日本赤十字血液センターにある。日本では毎年赤ちゃんが約100万人生まれるが、1万~2万さい帯血提供の申し出を受けている。提供されたさい帯血が保存可能かどうかは、細胞数や安全性をチェックしてから。さらに半年後に赤ちゃんが元気なことを確認し、さい帯血サーチのシステムに載せるのは、提供された個数の約1/10になり、毎年2000個程度を公開している。年間1200個が移植に使われ1000個程度が10年間保存になる。1万個のさい帯血で大概の日本人にHLA5/6座適合のさい帯血が見つかる。ただし、体重が重い成人男性にも必要な細胞数のさい帯血は、まだ不足していると思われる。

菅 細胞数の多いさい帯血とは、採取施設の技術か? 妊婦さんが希望すれば、どこの県でも提供できるか?

高梨 細胞数が多いものは保存・公開すると、すぐに使われている。さい帯血を採取する産科病院は、ボランティアとして協力してくれている。保存数



高梨氏

谷口氏

パネリスト	
厚生労働省健康局移植医療対策推進室	
室長 鈴木 章記 氏	
公益財団法人日本骨髄バンク	
副理事長 小寺 良尚 氏	
日本赤十字社血液事業本部技術部	
次長 高梨 美乃子 氏	
虎の門病院血液内科	
部長 谷口 修一 氏	
全国骨髄バンク推進連絡協議会	
理事長 野村 正満、副理事長 菅 早苗	



鈴木氏

小寺氏

が本当に不足しているのであれば、参加施設のすそ野を広げる必要もある。現在14都道府県の90産科病院が参加している。搬送時間が問題になりどの県でも提供とは至っていない。各バンクもより細胞数の多いさい帯血を保存しようと努力している。

**コーディネート期間短縮対策、末梢血幹細胞の凍結保存**

小寺 コーディネート期間の中央値は約150日だ。年間2300人が患者登録しているが、この日数では、半数以上の患者はそれまで待てない。期間短縮は容易ではない。特に、ドナーが決まってから採取までの日数は70日以上かかっており、採取・移植施設間の日程調整に時間を費やしているのが実態だ。改善対策の一つとして、血縁者間移植ではすでに2/3以上の患者に行われている、末梢血幹細胞の凍結保存を骨髄バンクに導入すること。ドナーの都合の良い日に採取・保存し、患者の最適な時に移植するシステムにすれば、かなり期間短縮ができると考えている。

**コーディネート期間短縮化に拠点病院が果たす役割**

鈴木 患者の命を救うために、出来ることを関係者が皆で協力して行くことが大切だ。拠点病院の役割は、良い事例を全国に情報共有・水平展開していくことだ。これまで以上に、骨髄バンクと各施設が連携を強化して頑張ってください。

**コーディネートマニュアルの見直し、システム更新**

野村 日本骨髄バンクのマンスリーレポートに、突然、これまで出来ないとしてきた「コーディネート手続き、マニュアルをゼロベースで見直し、抜本的に改革する」と表明したが、それは何か？

小寺 財政安定化対策を検討するワーキンググループが、財務状況を改善するためには、やはり移植数を増やすことが大切という基本認識となった。そのためには、コーディネート期間短縮化が必要であり、家族同意、第三者立ち合いなどの検討もある。

鈴木 骨髄バンクの側が、自分の方から説明することが必ずしも得意でない。そして、お互いに疑心暗鬼になっているのだとも思っている。今後は、ボランティアの方々、医療関係者など広く社会的にも率直に対話できるよう、私どもも努力していきたいと思っている。

菅 初期コーディネートを5人から10人への拡大は？

鈴木 先ほどスライド説明したのは、まだ構想段階の一例だ。

高梨 現在、日赤のバンクシステムの更新検討に入っており、コーディネート期間短縮化に役立つものにしたい。例えば、採取病院の空き・予約状況を一覧で見れるシステム、初期ドナー候補者10人に一斉メール配信することなど、主治医のストレスを少しでも軽減するようにしていきたい。IT化が進むと主治医が直接選択でき、迅速化が可能になる時代だと思うので、皆さんからのご提案をいただきたい。

**日本骨髄バンクの財政問題について**

小寺 財政安定化、収入を増やす一つの対策として、患者の負担金改定がある。バンク側が一部負担している検査料を全額患者に負担願いたい。患者負

担となっているコーディネート料の一部については、公的補助にしてほしい。こうしたことを提言したものだ。さい帯血移植では患者負担金はないので、バランスも考えてほしい。支出の削減、効率化は、今後もさらに検討していく。

鈴木 骨髄バンクが、どのような移植件数、業務件数を想定しての財政モデル計算、対策を立てているか検討を始めた。サービス向上と短縮化対策の投資資金の確保は欠かしてはならない。単なる節約対策になってやる気を失わせることは避けなければならない。

この後、会場からドナー登録推進対策として、①日赤の各献血ルームでの呼びかけ、②雇用対策資金の活用、③普及啓発・ドナー登録推進活動の役割分担、④地方自治体のドナー助成金制度の推進、⑤移植3万例の成績などの情報公開、などの質疑応答があった。



菅

野村

野村 我が国の造血細胞移植は大きな進歩を遂げてきたのは事実であり、その実績は評価されている。これから一層の努力をお願いしたい。最後に、骨髄バンクの財政問題では、弱い患者への負担金値上げ提案、そして職員のボーナスカットが一番最初になされた。普通は、まず収入の増加対策と経費削減の事業効率化が最初に出ないのは、おかしい。この点は、行政からの適切な指導、アドバイスをお願いしたい。

**今日もFightでボランティア? ⑨ ハンバーガーショップ by 杉本 はるみ**





### 日本赤十字社 「全国担当者研修会」開催

6月9・10日の2日間、東京港区の日本赤十字社本社にて、全国47都道府県の血液センターと7ブロックセンター、日赤本社血液事業本部担当者など約60名が参加して開催されました。日赤の取り組みがまた一歩進んでいます。大谷貴子さんの参加レポートです。

6年ぶりに開催された全国骨髄ドナー登録担当者研修会に、「骨髄バンク立ち上げについて」と題して、スピーチをして参りました。当初、このお話をいただいたとき、「日赤職員

の方々に、しかも、骨髄バンク担当の方々に、今さら、何をお話すればいいのか」と、一旦は、辞退を申し上げたぐらいでした。

しかし、30年前からの変遷、献血も含めて感謝をしている患者の思い、そして、今の骨髄バンクを取り巻く環境…ずっと感じてきたからこそ、ずっと見てきたからこそその話しもある、と、考え、参加させていただきました。

そして、せっかくなら、最初から最後まで参加し、全国の担当者の方々からのご発表も拝見したい、と、迷惑？ながら、ずっと座っていました。その中で、印象深かったのが、「どうすれば、骨髄バンクの説明員になれるのですか」という質問。それは、「センターの中で説明員を募集し、18名も説明員になっております」というお話があったので、各地センターのそれぞれ

のお働きに、「ハッ！」としてのご質問でした。こうして、それぞれのご努力で、また、新たな患者さんの命が救われるのだなあ、と感謝しながら、帰路につきました。

ちなみに、日赤職員の皆様からいただきました名刺のキャッチコピーは「人間を救うのは、人間だ」でした！

#### 【参加研修生からの主な感想】

- 大谷さんの講演をとおして、業務の先に命がある事を考えさせられました。
- 講演を聞き、骨髄移植を受ける方は、輸血も必要であり、献血業務と骨髄ドナー登録業務について別々のものではないということを改めて感じた。より一層業務に力を入れていきたい。
- 講演を聞いて骨髄バンクの重要性を再認識できました。このような機会があると職員の意識向上にもつながりいいなと感じました。



千葉

### 大切な思い 建正君のこと



3年ぶりにシンガポールを訪れました。今回は中学生になった建正君に逢いたいと。

約10年前、彼は2才で発病、骨髄移植を受けるため来日。しかし、熱が下がらず、飛行機に乗るのも躊躇、それでも何とか名古屋赤十字病院に着きました。その後、移植のため、名古屋大学附属病院へ転院、なかなかドナーさんが見つからず、お母さんからの移植を決断。その直後、救いの神のドナーさんが承諾、無事バンクを通しての移植に成功しました。

その彼が中学生になったのです。英語、日本語を駆使し、スマホを巧みに使い（流しのタクシーもスマホで呼んで下さり。）とてもCleverな少年に成長していました。パパ、ママのしっか

りとした教育と愛情も感じられました。お会いでき感動でした。

このことでは沢山の偶然が重なり、今に至っています。

まず10年前、船橋で千葉の会主催の医療相談会が開かれ、その時に建正君のお婆様が相談に来られました。小児科のDrと相談をされていましたが、シンガポール在住ということで、私が間に入るようになりました。まず輸血の血液が必要とのこと。ここにも又偶然が重なりました。丁度その時期、会長の梅田さんがシンガポールに出張中でした。すぐに連絡を取り梅田さんの会社の社員さん（たまたま大学の後輩がシンガポールで勤務中でした）を通じての血液集めから始めました。血液集めに奔走して下さった方はなんと私も存じ上げている方でした。その

当時、私の息子が名古屋に住んでいたため、たびたび建正君のお見舞いに行くこともできました。

このようにいくつもの偶然が重なりました。世の中どこかで繋がっているのだなと、感じています。私の22年間のボランティア活動の中で、大切な思いのひとつです。（千葉の会 西島一恵）

#### 賛助会員の皆さま紹介（敬称略）

##### 【一般賛助会員】

大曲商工会議所＝秋田▽牧原秀樹＝埼玉▽木戸屋醸造株式会社、匿名＝岐阜▽三島商工会議所＝静岡▽有限会社タカラ＝沖縄

##### 【サポート会員】

匿名＝埼玉▽匿名＝東京▽中村智景、原弘久＝岐阜▽橋本一晃＝愛媛

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ●5月21日～6月20日(敬称略)

川越初雁ライオンズクラブ	現金	100,000円	深川 勝治	現金	10,000円	●白血病患者支援基金	
田所 憲治	現金	5,000円	鈴木 純子	現金	1,348円	小野寺 泰則	現金 10,000円
高梨 美乃子	現金	5,000円	三瓶 和義	現金	1,304円	宮野 真知子	現金 8,000円
鈴木 章記	現金	5,000円	山村 詔一郎	現金	3,000円	●佐藤きち子患者支援基金	
小寺 良尚	現金	5,000円	二見 茂男	現金	2,280円	公益財団法人 大原記念倉敷	
谷口 修一	現金	5,000円	栗本 孝雄	現金	3,000円	中央医療機構	現金 9,576円
山内 清行	現金	5,000円	匿名	現金	5,000円	三森 裕	現金 30,000円
吉田 悟	現金	5,000円	匿名	現金	560円	●募金箱	
塩谷 泰人	現金	1,000円	ボランティアの集い有志一同	現金	10,000円	ホームセンターコーナン市川原木店	現金 9,312円

活動資金の支援をお願いします	銀行口座	三井住友銀行 新宿通支店	郵便振替口座 00150-4-15754
		普通 5666655	

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会